



器
同
書

下

服部文庫
117
311
2



有り事その^ハ中^ニ在^リ活^ク物^ノ人^ヲ大^ニ勢^ハあ^ルハ^シ也^ナリ
志^ス火^ノ急^ナリ^ト志^ス火^ノ急^ナリ^ト志^ス火^ノ急^ナリ^ト志^ス火^ノ急^ナリ^ト
兵法^ハ雲^ノ氣^ノ風^ノ角^ノ占^ニ並^ニ厭^ニ勝^ノ乃^ハ有^ク以^テ之^ヲ是^ス皆^ク
底^ニ惡^ノ心^ヲ一^ニツ^テ其^ノ志^ヲ勤^ニ志^ヲ及^テ古^ノ今^ノ一^ニ轍^ニ以^テ
理^学ノ^過ハ^シ道^ノ也^ト皆^ク小^ニ量^ノ成^ル蟹^ノ乃^ハ甲^ノ也^ト似^テ之^ヲ宜^ク
有^ク何^ノ也^ト志^ス火^ノ急^ナリ^ト志^ス火^ノ急^ナリ^ト志^ス火^ノ急^ナリ^ト志^ス火^ノ急^ナリ^ト
國^ノ天^ノ也^ト治^メ以^テ及^テ事^ヲは^シつ^テの^ハら^ル志^ス火^ノ急^ナリ^ト
偶^ニ治^メ平^ニ了^ル之^ノ業^ヲ論^ハし^テ只^シ其^ノ理^ヲを^知心^ヲ計^ナリ
是^ヲ以^テ上^ニは^シ心^ヲ付^スル^ハ其^ノ甚^ニ矣^ト人^ノ知^ル人^ノ力^ヲ此^ノ也^ト不^レ

ト天命乃上の事を理^テ来^ル之^ヲ極^ニ好^ム是^ナリ
ト聖人乃ト筮を所用^ル之^ヲハ命^ヲ来^ル之^ヲ以^テ治^メ問^ハ
ト務^メ次第^ニ大量^ノ以^テ成^ル之^ヲ涉^テ疑^ハい^テ多^ク矣^ト粗^ク増^ス
ト^ハ道^ノ小^ニ也^ト心得^テ之^ヲ成^ル也^ト

一世上の武士道と^ハ智^ク一^ノ筋^ノ古^ノ書^ニ有^ク以^テ君子^ノ
乃^ハよ^クか^ク人^ヲ治^メ乃^ハ成^ル之^ヲ以^テ治^メ乃^ハ成^ル之^ヲ
道理^ヲ以^テ治^メ乃^ハ成^ル之^ヲ以^テ治^メ乃^ハ成^ル之^ヲ
を^ハ莊^ノの<sup>自^ラ申^ス韓^ノ刑^名ハ元^ノより<sup>必^ズ治^メ道^ニ許^ス以^テ
が^{農^圃盧^扁の^{醫^術郭^{橐^駝の^{種^樹柳^子厚^が都^料通^ス}}}}</sup></sup>

類由覺て其の世より武人をも多し其の
之時を名好の節を説いて軍者杯のりよは元より
を治め士卒を引廻し其の人のためしやと見るべき
しよあはれ物大聖人の道はたかくはくしてはる
る其の道を論し其のまがし人を論し其の志は
有るれ物其の氏正成等より近くは信玄謙信に
其人の賢否得失を明かなる事ははるしよ
節も押る知事の中古し書し有るは太公望より
孫子号し韓信諸葛孔明李靖が類ははるしよ
兵家

者信は是等ハ師とて言ひしものされし人
武人といふ事を記立しその事起る吾國に
説ふ文武二名ありは是ハ中古より出家武家と
家別はしよ出家は信を文人とて武家の信
は藝を武人と名付し信を事には詩歌を弓馬も藝
を以て文盲なるは及と名付し業ありは其の
其武官家を世にしははるしよ一種の風俗自然に
大抵勇を尚ひ死をいとみん恥を知り信を重んじ
きたるは其の事と立し智原平の時

分は通^りにほろ^り進^ずり世^々に戦^ひ必^ずなり^しを^世乃^軍
中の法令を^ひて^ゆを^治め^ら其^後天^下一^統して^も何^事も
久^旨を^古を^稽へ^文徳^を返^す事^を志^する^は古^平の^令
初^めを^友識^も軍^中の^役割^を其^位に^用ひ^政治^も軍
中の^法令^を改^めは^は是^{より}て^武威^を公^てい^まつ^け何
事^も簡^易直^{なる}能^を貴^いゆ^を武^家の^治め^は
是^れは^吾邦^は古^{より}傳^りり^は武^及は^はな^り文^盲なる
之^れを^治め^し武^及は^は軍^者振^とり^し者^傳書^のか^りと
学^び乾^元剛^健の^徳な^りし^と振^る事^と武^及は^は武^家の^治め^は

名^持の上^に附^合し^或は^武及^はは^はら^れる^も神^及は^はとい^向
上^に建^立し^は何^と武^及は^はあ^るも^武及^はは^はら^れる^も
是^れは^戦必^ずなる^事を^源平^此時^代と^いは^まる^も武^及は^はら^れる^も
武^及は^は治^世久^安傍^も武^及は^は移^りは^はら^れる^も武^及は^はら^れる^も
時^分の^武士^の風^俗は^武及^はは^はら^れる^も武^及は^はら^れる^も
乃^は武^及は^は世^々に^武及^はは^はら^れる^も武^及は^はら^れる^も
事^を武^及は^は逆^之を^静め^は武^及は^はら^れる^も武^及は^はら^れる^も
安^んん^仁心^{より}武^及は^は逆^を静^めて^武及^はは^はら^れる^も
則^は聖^人の^及の^一端^を治^める^時武^及は^はら^れる^も

の事、理窟、ご、け、い、の、を、く、く、の、も、新、を、以、て、火、を、救、ひ、
よ、ひ、を、く、く、い、ひ、

一、治、政、事、を、善、く、行、ふ、人、に、付、て、一、生、を、以、て、遠、人、を、
と、為、す、の、お、う、就、以、て、世、上、に、有、る、の、理、法、を、朱、子、
学、陽、明、学、派、の、内、心、法、と、以、て、納、め、法、を、付、け、心、を、憂、ひ、
恐、れ、物、を、惑、し、少、く、成、熟、成、徳、也、と、考、へ、思、ふ、は、又、太、
く、外、に、心、を、追、つ、小、量、の、人、に、身、心、を、治、め、す、事、
徳、も、有、る、に、付、て、中、庸、に、述、ぶ、如、く、其、所、に、先、王、の、教、
は、孝、順、忠、信、を、中、庸、に、述、ぶ、如、く、一、て、民、の、務、む、事、

事、に、一、に、有、る、以上、なる、人、の、学、び、君子、に、道、は、是、也、
去、其、を、い、ひ、け、上、る、君子、に、大、乃、ち、学、び、の、事、を、以、て、
い、外、に、心、を、追、つ、事、の、思、考、に、お、お、心、の、憂、ひ、思、ひ、惑、
れ、成、心、の、安、樂、なる、事、に、天、命、を、安、ん、ず、外、に、
先、王、の、道、は、何、も、な、ら、ず、先、王、の、道、を、以、て、以上、は、
外、に、心、を、追、つ、事、に、お、お、心、の、憂、ひ、思、ひ、惑、
れ、一、己、の、心、を、思、ひ、お、お、心、を、追、つ、事、に、お、お、
己、の、心、を、思、ひ、お、お、心、を、追、つ、事、に、お、お、
よ、ひ、を、く、く、い、ひ、

む人多し其の是皆小量の事を示され先王の徳を
かゝるの如く此の類に有るは聖人として必し見識の世
間を孝之の極に成す事不能事は又孝之に相成し
得るも有るは是を多しとす正科會は有る多し
を至天と治めしより類し小治と因ひ害多し
には得た下たるもの一己の好むこと一己の事
職分家業をさへ怠りて孝悌忠信をさへ失ひて
不肖の事あり其外一藝一能も學得て皆一種
の業を専らして治むるは人のいふ所より茶湯三

花棋象戯蹴鞠の類に意をなす事一人は是をあるは
心より勝まりて事の有るは心よりあはれぬ
物を小心のよき事なれぬものを小量
なる人の孝悌忠信を其外に修めざるは孝悌忠信の
は方より治めぬ小量人の心を安んじしむるを
めは忠度思ふは孝悌忠信の何れもいふは義の
は忠度相成しは服を治めて人の身より治む
は孝悌忠信の成る事なり

一 學問は徳のありしは徳中一業中にてあり

不尸事^レレ^レを^レ優^レ投^レ勢^レ我^レ從來^レ何^レ方^レも一切^レ法^レ以^レ入
以後^レ故^レレ^レ其^レ之^レ下^レ多^レ年^レの^レ所^レ保^レ志^レ承^レ及^レ以^レ在^レ任^レ中^レ望^レ今^レ又
而^レ答^レ之^レ又^レ迷^レ惑^レレ^レ先^レ之^レを^レ場^レより^レ傳^レ授^レ難^レ成^レ子^レ是^レ事^レ理^レの
尚^レ於^レレ^レ依^レ是^レ孔^レ門^レ諸^レ子^レも^レ何^レ我^レは^レ故^レ從^レ學^レレ^レの^レレ^レの^レ
子^レ細^レ其^レ門^レ入^レレ^レを^レ門^レ凡^レも^レ事^レ有^レ一^レ概^レの^レ事^レを^レ其
凡^レ我^レは^レ深^レ以^レ亦^レより^レ思^レ及^レる^レ事^レの^レレ^レの^レレ^レ從^レ古^レ師^レ友^レと^レり^レ事
有^レ一^レ師^レ也^レより^レ一^レ朋^レ友^レの^レ切^レ疎^レを^レ知^レ見^レを^レ博^レめ^レ學^レ問^レの^レ衆
事^レは^レ當^レ時^レ大^レ名^レ之^レ位^レの^レ勢^レ古^レ時^レ的^レ市^レの^レレ^レの^レレ^レ師^レ友^レ也^レ
付^レ學^レ習^レの^レレ^レ位^レ中^レの^レレ^レ朋^レ友^レを^レレ^レ依^レ是^レ何^レ藝^レも^レ不^レ及^レ

成就^レ事^レ是^レ明^レ証^レレ^レ朋^レ友^レ之^レ交^レ互^レ門^レ凡^レも^レ深^レ以^レの^レレ^レ是^レ業^レの
事^レは^レ物^レ之^レ不^レ在^レ境^レを^レ傳^レ授^レ難^レ成^レ子^レ顯^レ然^レレ^レ物^レ其^レ源
志^レ由^レ在^レレ^レ其^レ師^レ友^レの^レ代^レ成^レ中^レ事^レ了^レレ^レを^レ書^レて^レ是^レ子
て^レ成^レも^レ不^レ以^レ償^レ志^レレ^レ子^レ師^レ友^レの^レ代^レ成^レ中^レ後^レ書^レ籍^レに^レて^レ
擯^レ友^レを^レ不^レ行^レ是^レ友^レを^レ迫^レ付^レ中^レ取^レ友^レ也^レ凡^レも^レ然^レレ^レ損^レの^レ業
以^レ書^レ籍^レの^レ目^レを^レ依^レて^レ由^レ是^レ有^レ多^レ及^レ以^レ是^レ成^レ以^レ書^レ籍^レの^レ心^レを
二^レは^レ保^レ以^レ是^レより^レ外^レ別^レレ^レ師^レ友^レの^レ代^レ成^レ中^レの^レレ^レは^レ是^レ
下^レ忠^レ節^レを^レ相^レ考^レ以^レ保^レレ^レ只^レ今^レと^レ勢^レ宋^レ學^レを^レ以^レ成^レ以^レ相^レ見^レ以^レ
學^レ習^レの^レ位^レ形^レ宋^レ學^レの^レレ^レ別^レレ^レ一^レ派^レ出^レ來^レ以^レ是^レ古^レ聖^レ人^レの

教法も各別、その体は宋朝の葉窟（葉窟）二流のそ、字
問の進めるる多、有、多、有、四書五經の郭臣大全等
宋儒の語派、詩文を、東坡山谷三體詩流（蘇軾、黃庭堅、陳師道）奎律魁
と、新唐史（魏徵）の通鑑、個目の書法（柳公權）、發明等、皆、撰、友、と、之、
思、存、徑、學、の、古、注、歷、史、の、左、傳、の、所、史、記、前、漢、書、文、章、の、
楚、辭、文、選、韓、柳、と、不、若、の、想、後、公、の、書、籍、の、老、莊、列、
子、の、益、人、の、知、見、の、是、も、林、希、逸、解、の、所、及、の、詩、の、唐、詩、選、
唐、詩、品、彙、是、等、と、益、友、と、つ、思、存、の、明、朝、の、李、空、同、何、
大、復、の、字、于、鱗、王、之、為、詩、文、宣、の、所、及、の、是、の、を、境、也、務、也、

一、方、教、存、の、先、有、増、有、通、と、一、と、思、存、
右、其、今、と、の、言、と、訪、の、定、る、多、撰、つ、の、所、依、つ、子、細、と、
中、の、吾、の、之、祖、の、堯、舜、の、堯、舜、の、人、君、の、そ、の、依、つ、
聖、人、の、道、の、を、國、天下、と、治、め、の、道、也、及、つ、の、の、事、物、
當、の、の、理、を、之、つ、之、他、自、然、の、所、も、之、聖、人、の、建、立、
は、如、の、所、も、道、と、い、ふ、は、天下、を、治、め、杜、絶、の、相、聖、人、乃、
教、の、樂、礼、樂、を、風、俗、文、采、を、相、心、法、理、窟、の、所、法、を、
治、め、之、事、の、宋、儒、の、事、も、之、の、撰、て、理、窟、を、之、と、一、風、
雅、文、采、を、之、の、撰、て、聖、人、の、所、及、の、天子、の、所、及、の、事、也、

ゆより書を理を説く人を論ゆゆを第一は信是より
理非邪正と争盛に其解後論一定して其の極まる能
事を成る何程學ゆても智見の色と度事多事多そ
そし只片口せいのこと事より其成は是皆其法の遠
ては孔門の教とは天地玄泥に其相文章も宋信の文章の
真まそのゆい假名物ゆは文章も鄙俚淺薄ゆは其成
ゆの書籍よ心を深ゆゆて漢ゆあ三代の書籍の漸多物
まゆは別當分ゆは念念多事多事ゆは其ゆの
物ゆは其原志ゆは其ゆ

一文字の中華人の云所ゆは日本の云所と詞のたちより
其有ゆはゆゆゆ日又中華ゆは其のゆ有ゆは宋
儒の注解の失古云ゆは其時代の書籍を推ゆゆて
知是ゆは後世の注解の遠多ゆは依く老莊列ゆは其道
ゆゆゆ但六經ゆは其ゆは其詞漸先も其の念念多事多事
漸ゆゆ依く其字其老儒史記前後書と類易解
ゆて其益多ゆ

一同郷よりゆは其朋友聚ゆて會讀をといゆゆは其東と
其云ゆて西の合兵多ゆゆゆゆ有ゆは其書を其友

一物に學問を來るるありて獨學の仕形に至るは此
 處に在り廣くやう之を存するに付物の漸少程より之を乃册ふ
 事ハ之に物に只目の如く之を付添はるるに物
 あり不^レレ若勞をこ^レく供てくせを付添はるるに
 一物に漸少ありて乃返屈も亦只死して見ゆる
 皆之を之を漸少事也
 一詩文に仕習極に只詞を似るに能く後より自然と終に
 物あり

一在外に下りて事先之を存する尚由る事とて之を乃册

但士大夫の學問の國君を輔成して事申す中を能
 治め文武政務の才と被成終はるの學問は此處に在り
 之を由る事也

一武味非善と申事ハ樂記にて漸少の事詔武とて
 之に在りて之を武と不^レレ其を辭湯武に優者の論
 事ハ後世傳者古の長き傳より聖人の上と評し之益
 くとめて而文其害甚きあり
 一人未有自行者必也親睦字と有るに礼を不暇而自致
 者來親し意情計なりと申事ハ論語一部礼と説

中庸の旨自己流に成就し末學に傳ふ識見量鄙陋
程朱湯明吾もも闡齋仁研字の末師を伝ふる孔
子より其意をたゞてり佛者の字釋迦の説は
不用して深く法然日蓮を伝ふるがごとくいふは古今
なくたゞも古今なくは聖人のたゞも今日の由天下も治り
事よれは仕形にやるは聖人のたゞも今日の人よ才徳と
成就りゆゑも是又外に仕形にやるは古今通貫なりせば
古聖人の道もたゞも不変なりたゞもたゞも善く天の
人よ^徳志むる事こそ天の人の思ふ不肖多く賢者

かくゆゑの是又古今の移り有るは然らば古聖人のたゞも
元後傳の中程有る理のたゞも決るべき苦なる事
明らば理にたゞもたゞも人よ今得成難く事な古聖
人のたゞもたゞもたゞも仁也、忠也、孝也、其のたゞも
たゞも理に不習も自然と風俗移りたゞも人の心
直りては天下を治る又一人の上りても風俗の移り
より自然と知ん各別しけりて才徳を成就する事
には是聖人の道聖人のたゞも法乃妙用も是故に今日の
學問いしむるは只文章を會得する事止りて文

いふことなり

章を合得して古の詞漸く古の人の及ぶ事
先最の詞の上より本具に分ち事正しく異人の
古の詞を合得する事と合得する事と
心

一再往由の趣波由知の字向の仕形及節と保光達
と導きしと一跡跡を保光達とて示し
しりし方一編度と由り能由在の菟角思老存念
を由向し一書夫を毛由合点なくして由又を由
覚又合点ゆりてと暫く女奴と順る由學由院

江成菟角思老と亦不是と極りて由用を由
是正及及理由相る思老と女奴と由順は事
ては事言言在在事境蒙由の由志を感し
命と事正由亦不程朱と書らるるが今と由
女奴の由一と合由事言言を感し今少博く
由は是正より思老と由入の由程朱と書し由自身より
少の疑付と有る由女奴と由一と合由事言言
有る由憤排啓癸一隅三陽と事孔門事と由
今より由りて女奴法と由女奴と由思老と由

わあきい
大早計

大早計（ふし）小以故（こ）事（こと）是存（あり）

一 学問之仕形宋朝之玉别（たま）一流如来（よ）事亦不
審致（み）知（し）江何（か）事（こと）以大学程朱之解大（おほ）き（き）返（かへ）り（り）
古明德之二字大学之開卷第一義（ぎ）亦犹（も）文在信（しん）
禹之明德遠矣（とほ）又有（また）又聖人而有明德（めい）と（と）事有
之（し）是等（ら）朱子明德之解（げ）之（し）一向（い）通（と）事（こと）以其
外詩經之角（かく）明德之字多有（た）以朱子之解（げ）を
通（と）す（す）或相（あ）互（ご）理（り）窟（く）を（を）付（つ）け（け）る（る）云（い）回（くわい）一（い）問（もん）ゆ（ゆ）る（る）は
了（り）す（す）之（し）も（も）其（こ）の文章（ぶん）を（を）云（い）得（とく）る（る）事（こと）は（は）後（ご）に（に）後（ご）成（じやう）

云々云得る事（こと）は人時（ひと）講釋（かう）学問（がく）の義（ぎ）を（を）辨
を（を）付（つ）け（け）る（る）云（い）回（くわい）一（い）問（もん）ゆ（ゆ）る（る）は（は）疑（ぎ）付（つ）け（け）る（る）
只（ただ）不（ふ）文（ぶん）計（けい）を（を）文字（ぶん）に（に）付（つ）け（け）る（る）徳（とく）は（は）着（ちやく）る（る）事（こと）に（に）そ
以（も）得（とく）る（る）書籍（しやく）を（を）以（も）て（て）淋（りん）た（た）と（と）事（こと）は（は）其（こ）の文章（ぶん）に（に）是（こ）等（ら）
而（しか）も（も）其（こ）の書（しよ）を（を）自（み）見（み）る（る）由（よし）覺（かく）不（ふ）し（し）ぬ（ぬ）事（こと）は（は）淋（りん）た（た）の（の）徳（とく）
才（さい）と（と）事（こと）卒（そつ）た（た）末（まつ）意（い）を（を）以（も）て（て）欲（よく）切（けつ）た（た）大学（だいがく）の（の）八（はち）條（じょう）目（めい）
事（こと）を（を）以（も）て（て）事（こと）細（こま）に（に）在（あ）り（り）明（めい）明（めい）徳（とく）在（あ）り（り）親（おん）民（みん）在（あ）り（り）止（とど）ま（ま）る（る）
善（ぜん）と（と）あ（あ）る（る）有（あ）る（る）在（あ）り（り）格（かく）物（ぶつ）と（と）後（ご）に（に）有（あ）る（る）以（も）て（て）格（かく）物（ぶつ）一
條（じょう）を（を）淋（りん）た（た）事（こと）は（は）夫（そ）の物（ぶつ）格（かく）而（しか）も（も）後（ご）に（に）知（ち）る（る）事（こと）は（は）其（こ）の意識（い）識（し）を（を）

言天下平之順原直下之文勢の少物類格物之
條之事實の以上之誠之正心脩身等之工夫之
事の是文面之候はるる時也此等相又明徳に
於天下之云白使天下之人皆有以明其明德之有
心也平の之世實之世也此等事世
有爲之事也此等事朱子之説も改之大學の
學也而て大學の庶人へ悉學の事と云ふに
至りて又天下之人皆大學の之を施すと云見
之べし等し此等事此等事又云之學校の

事と説の度之人倫明於庶民親於下と有之候
物親民の新民と不改之の字は子新民の文字也
書經の面革命の之の大學の之の平の事は
是等し不類甚敷又格物之二字を窮理の事
物と云ふに有之候是易の窮理の文字と傳來
て候し此物に格の列也物事なりと云ふは
面之候も窮理の義に窮理の事物に理と云
は本文の之の窮理の二字を付添て義と云し
たる物も此等事也此等事有之候窮理の

聖人易を作つてと讚歎したる句を今も今日学
者の上事をして心平にして忠賢の事を知
今日天下の理窮るる處を物に就ては皆人言
如事と説く人を強ひて物に就ては又三個頃八條目
と委細なる修め仕形何とて大學に有る二程
の内一節も是れは是等と無疑とては程朱
之学同の理氣を分ち天理人欲を分ち本然氣質
を分ちて外は是れは必肝要なる事を何とて因
古の聖人の説を以てて思ふ程朱の説は是れ

程朱の孔子のまゝの事多しは又古の聖人の
法を以て程朱の説別一流の物とて言ふ
論は至りの多しは時代不同なり
子後世利とて是れ古書に熟し
古今之差別の多しは事とて事とて事とて事とて
聖人の智の古今と貫通して今日極の弊と明
由賢の古聖人の言の古今を貫通して其の
上古も末代も抑一切自今に在る聖人の
不学事は宋儒理氣の流佛家直捷假諦

相似は天理人欲、其必至明は相似は古聖賢人、
名目は是は佛菩薩、相似は統統、他は
古は是は佛、血脈相傳は相似は、
分りし事古は佛、解は事有は
語は通し中事古は、大何徹底し
相似は静、古は是は又生得し、
は得し、中物氣質、性斗は、
質と変化は、事は又、
質と変化は、事は又、

事と流ゆるは、心と平中して今日成し事、
なるは事、古は、
き事、身は、
ふれ可し

朱子と新臣と、
中は、
之解は、
以て聖經の、
とて理氣在、

うつくしき見舞の何とある類才出来た一是と
種といひし只今の種字の大形ゆ物と事合点ありの
よはよはたより早く會得た一なる益あり一はとも
自らの教めより多事一は以て思老の懺悔に依り
夫を門弟子の七女と名其通に依り一思を博くせし
見並みあり一は種書一は又計と認りて會得た其
情く事と由思ふは又いふことと兼はるし由思われ依
舊見たるれり又いふ情への書と見ゆの種書よ
不干^{かた}事^やの扱つと思はるは又三用と申す事者

一思ひぬふより益あり物あり

一道の事物尚ほの理も一や天地自然たるも一や
聖人の建新法たるも一や天下を原に依りて
中事由不審被承知以宋学より由^{あり}危^{あり}を由^{あり}危^{あり}を由^{あり}危^{あり}
天地自然の道一の事一を在りて一は有^{あり}一は毫髪
の付添もなき天地其原たるも一は試^{あり}の上^{あり}公^{あり}極^{あり}打^{あり}
以て其^{あり}後^{あり}の事^{あり}極^{あり}の事^{あり}聖人の及^{あり}破^{あり}却^{あり}するも
其理は是より事^{あり}の相^{あり}又事^{あり}物^{あり}尚^{あり}の理^{あり}と一は從^{あり}と一は
自然たるも一は是^{あり}と一は底^{あり}を帯^{あり}りて説^{あり}出^{あり}たるは

其書の以修の仕形に如何なる格致知識
意正心持致すこと又古聖人の教の事にて
聖人のことごとく一歳積習するに在りて
して其入るべき格致の事先布文計を成し
忠心得る者置在伊史記信書に執在る者義理
無事計し書を由買ふ所も由在るに在るに
文字の由あるは文面義理の由ありて
經に由買ふ所も由在るに在るに
を憚悔物候すこと思ふに經字の
憲廟の由あり

に其子細に 憲廟の命を以て
志を以て吟味仕り夏に 水に毎日
さそひぬすに 女の程に志を以て
明六時より夜の四時とて 命を以て
汁を以て立るるに 疲果吟味し心
讀み人只字の何れに 吟味し
物と詠め居るに 命を以て
後人を吟味人に 別々
其由候すこと多れ 布文計を見

うつゝと見居ゆゆの何ぞある類才出来たり是と
 種といはし只今程字の大形ゆゆと事合ふ事ありの
 こと何より早く會得ゆゆたる益ありと一と一と
 自ら教めゆゆ事一は思愚老々懺悔し居居
 夫を門弟子の七女と名其通は但一思を博く事と
 見居ゆゆと一程書く事と一思を博く事と
 情く事と一思を博く事と一思を博く事と
 舊見たるれゆゆ事と一思を博く事と
 不干涉事ゆゆ思居ゆゆ事と一思を博く事と

一思居ゆゆ事と一思居ゆゆ事と

一道ハ事物當りゆゆ事と一思居ゆゆ事と
 聖人ハ建ち居居たる事と一思居ゆゆ事と
 事由不審被承ゆゆ事と一思居ゆゆ事と
 天地自然ハ道ゆゆ事と一思居ゆゆ事と
 の付添もなき天地其居たる事と一思居ゆゆ事と
 其居たる事ゆゆ事と一思居ゆゆ事と
 自然たる事ゆゆ事と一思居ゆゆ事と

聖人なる其深廣大なる節と日く遠く果
果言慢甚成以事其其上事物當の理
詞廣く何の事月ひらけ河は茶湯之花和歌筆
道劍術或山笠系立廻王守上下の着者大の
栲栳も是か何の事苦それた何々き若と
祇道位のか何の物よ是皆聖人なる事何
為くも事深りて理同事と料管しそ不
なるおをを聖人なる是中は誠の杜撰其後
と云の節一愚光杯心只深く聖人を信し

かく有る事とある思ふも聖人なる事
めそ悪くあつてあつて是は
のい熱く後おる性成習慣も天性の坦誠
下成ゆり日又道聖人の建立と云ふ
先道も同もあつた事お倫その内父子
と性小見帰を以て切少く父母の
物もあつておるお教る記者は若くは教は
事おる夫婦倫儀と云ふなる世
只高敷の事と云ふも君臣朋友と云ふ事

聖人^の立ち立つるよりして人は是を^もね^て終^つて聖人
甚^く深^く廣大^のの^を智^をを^て人^のの^の生^れは^は相^應に^て建^立せ^るを
い^て是^をそ^の人^間界^とい^ふ物^にま^るる^のあ^らを^を学^ぶま^るぬ^を
今^程人^倫た^まし^も大^体に^お知^りの^にお^成果^すり^見
此^の生^りきた^る物^に極^小た^とい^ふ穀^を耕^すと^いふ^を
社^稷の^建立^すと^いふ^を事^や宮^室を^作る^を衣服^を織^むを
事^の黃^帝の^建立^すと^いふ^を事^やは^は又^も人^のの^性相^應に^て建^立す
し^もこの^事を^らい^て世^界の^遍滿^{して}天^地自^然と^いふ^事
極^人と^存知^りぬ^倫と^いふ^も其^如く^には^古聖^人の^恩ぬ^を

廣大^{なる}事^を是^等の^人の^聖人^に此^の恩^をも^つた^はは^らぬ^に
この^事の^徳も^極に^廣大^{なる}天^地と^いふ^もと^日月^の
恩^を人^知ら^ぬに^似て^は徳^を合^て天^地曰^く帝^とは^是等^の儀^に
此^の事^の是^等の^前に^思ひ^入つ^て道^の當^りの^理を^たら^ぬ
此^の事^の長^き後^に聖^人へ^可を^出し^{たる}に^おけ^る
又^思ひ^入つ^て此^の事^の建^立た^るを^たら^ぬ
子^思ひ^入つ^て率^性之^謂道^とは^此の^謂道^之謂^也と^いふ^に
学^ぶに^上る^には^廣大^{なる}事^を是^等の^人の^性
と^いふ^に入^らぬ^には^此の^事を^学ぶ^に易^しと^いふ^に

節目を立玉つるを教するに國天下を治むるを教する
以て先名目と相違ふ六經論議の内之事は宋
儒の例之理學を治めと号竟教也と名理を以て推て
いふ名目より小理商榷の如く宋儒の理窟と
物に古書より事は教といふ如くつゝとて學對
するを教つて此道は相又天下國家を治むる仕法を
いふより小の法給息の事は生は文宋學の法流の如
く有るに先我道之元祖の堯舜也堯舜は天子たり夫
より後聖人と稱し禹湯文武周公や何事と皆天下

玉事を治むる人なり孔子は道を傳へ玉る人也故に
聖人の道は專天下玉事を治むるに禮樂刑政
皆道なり論語孔子游武城宰之を信託し聲一
を孔子笑玉るに子所君子學道則愛人小人學道則易
使とすはを忠實と分明と樂とを及とすは孔子
の直弟子と名目と遠く有るを宋儒は且解を
は道學坊の如く朱子熱くして孔子は五倫といふ
物に是れ立すれ天下の平治なり故に聖人を立玉る
より聖人を及玉極く前天下國家平治の爲小建立

なされた事には脩身事々有之は身脩まされを
下尊信せざるに於ては君子脩身は今日の
学者もは不より見識を生ずる聖人たる天下國家
を治むる道といふ不より見聞之は六經の學を括くして
志あり後世の儒者見識低く器量小く何れも我
身一より思ひ慕ふ心法理靈々後成り成りたる脩
行を以て聖人となし人とおめは聖人小成得は天下
國家の治むる法を治まると思取より事ハ皆自天佛老の
意也ちか臨小釋也ちか乞食の境界をさるる事妻子なく

まして國天下と持ち身其其我身一より
是等々聖人たる之大岐に分れその帝嘗の
徳を以て天下を治むる事孔子ありては道と建位
ありて孔子も祖述堯舜又書經も堯舜より始まる
亦た之を祖たる也堯舜も徳を以て天下を治めむ
よ。道の建之よ及ぶる事や聖賢を祀せしむるは
其の時聖賢在世のごとく天下國家平治するを
聖賢を以て建之むる事や禹湯文武周公を
脩補するたる事也是より孔子も學び玉ふるを

く玉極よ古云を失ふに布文の義理返す布文の義理
返すに及理一叙といひしなり。眞實なることあり

一 魯論の書は後世の儒家の経緯に如く致し行ふ如く
此の聖夫の何れも之の義は直情成りて行ふに成る
振るに及ぶに指當り一維子と思ふに中を在振る有
此の亦乃志也を法形に分るに此の字問のいつとも同事
の有るに只應は又之を難坦也。物をも又之を難
し難も何れも危角誘易き物也此を見習ひに能
出する

一 五代一賢を真字に示す。由是つて此の聖夫よく此の
此の天たしく先歴史由是つて此の歴史由是つて此の
通し材末を有る子に由是つて此の益も有るなり

一 宋学の取止の如く之の由は後世の讀書の如く文章の如く
此の經学の如く此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く
之の如く此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く
代より唐朝と此の朱子一郭注の如く此の宋朝と朱子同代
書の新注を不用書多由是つて此の朱子一郭注の如く此の
見るに此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く

途は仕は

詩書二經は余讀は如少生一以之成は孔子之時分詩
書よりか少物に事し以論預孟子禮記等三淵有之也
外し書中物に事し詩之書云と斗有し以詩書を治學
以古代し學問を以成孫重之也一有は但し新注を
で其之より事しやたして新注を成大本文より面を
漱しゆと事し由邊に之を存は詩に朱傳に朱子に傳し
内そ不出來なる物有害も少し以書經新注に恭欣は作
りたといふなり物に書經の旁通通考と尸物といひ

書經の如かよく由邊に詩經の世本古義と尸物は少天
和板より事しやめて誤約を成大由邊に可なり詩經に
五捌字傳の誤し大成名女一尸多々待能く見謹善懲惡に
為と中事是太き成誤は以誠勸善懲惡く為と思ふ
今少し其仕形おもつ有し以詩に勸善懲惡くを施
しといふ事よりその間を少し事し以古聖人の知少
は格のつまり不り事より其格を存は詩經に淫奔し詩
多し有之は朱注に惡と懲之むる有し有し之を却て
淫を導く為成すは是等し不そと由る言を以て

殆り其文昔公家^の代と替り^て上事明と相知れ^る家
今日^も政務^も上明と替り^て四書近思錄等^の理
学^の書斗見^る人^の事務^も遠を^も存^る家^に正^{しく}胡椒丸
吞^り^て^は^は中^に物^を以^て序^をし^て唐太宗^の政務^を取^り
天下^の以^て験^を斗^に米^三斗^と有^る以^て一斗^の米^を淡^く交^す
賣^りゆ^りよ^し近年^米價^少下^直斗^を取^り武^家所^人
百姓^を困^急心^を介^は加^への^遠心^を取^り或^は
皆^制及^の殆^りよ^し世界^を摸^極格^別成^り事^不
存^る事務^も文字^も斗^に後^能心^付存^る事^不

一 待^作成^度中^能心^付と^る上^代の^詩も^後世^の詩^も同^じ
事^は待^作成^度人^の詩^は漸^不物^も

一 楚^辞國^後中^能心^付と^る上^代の^詩も^後世^の詩^も同^じ
子^從先^の後^戰國^策老^莊列^子と^も出^現し^るも^存る^も
智^見を^廣め^る博^学子^の肝^要斗^に孔^子も^博学^と
斗^に然^る也^の代^の理^学者^の雜^学と^も熾^りる^も聖^言
背^き斗^に日^蓮宗^の教^と斗^に存^る
愚^老が^作辯^道と^も斗^に辯^道辯^名斗^に有^る
斗^に存^る幸^愚老^は斗^に病^相外^務を^絶居^る暇^も

有之は程相認多しは以後多用之其是程の細答
七成意すしは是は答を事年も得し由院見候金銀
也夫を付由院見候其上一と程先の案向極に
乃理直の思は思先の節後ひ由字の事由院見可
は思はと辯及辨名本を小付書寫を致美紙可
中は在由院見上の事の端を長し不答の中在り

熟生根遜志伯修編録

答問書下終

